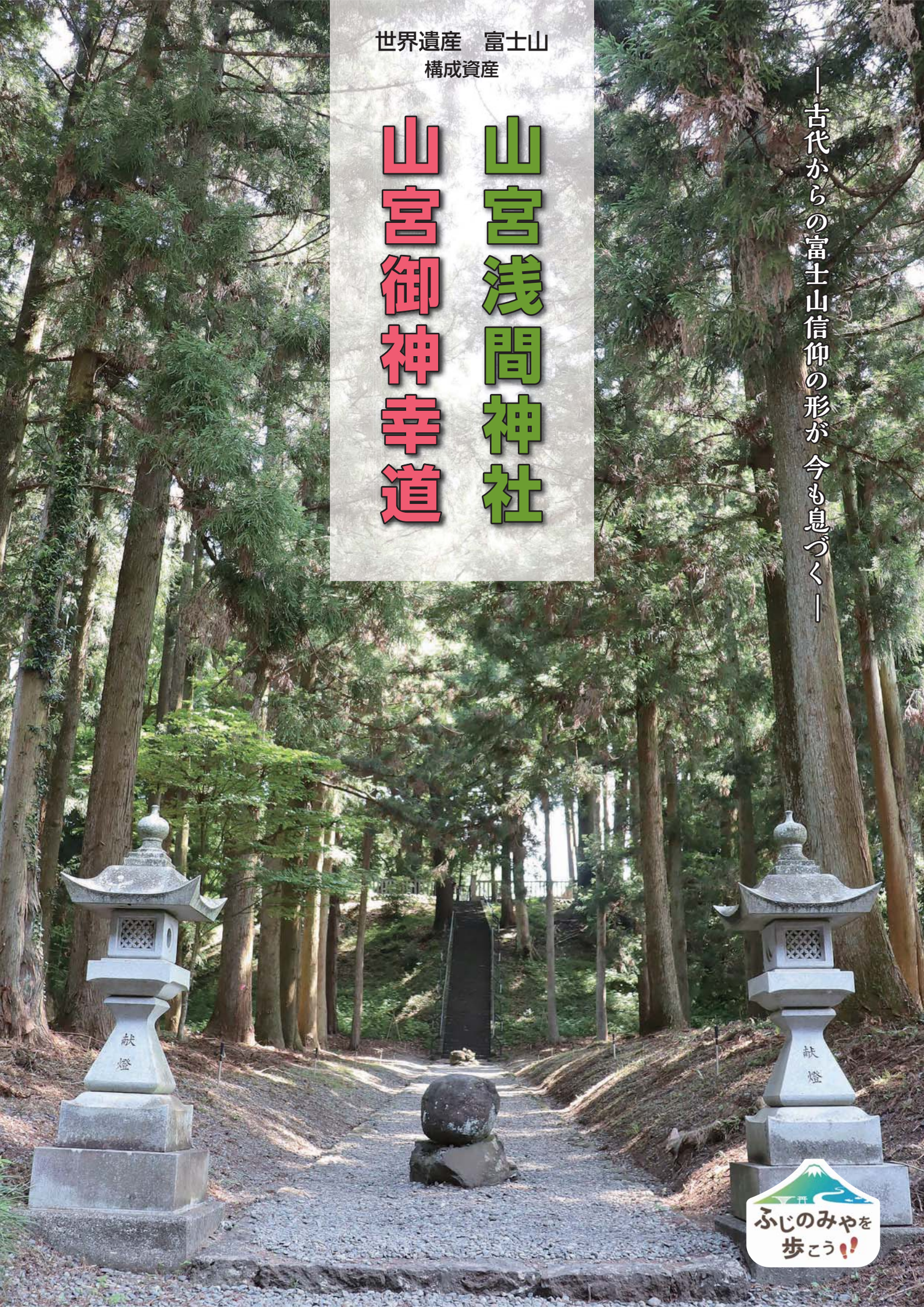
世界遺産　富士山
構成資産

山宮浅間神社
山宮御神幸道

―古代からの富士山信仰の形が 今も息づく―



ふじのみやを歩こう!

— 富士山そのものを 神として拝む —
古代からの 富士山信仰の姿を 今も留めている

富士山信仰と山宮浅間神社

古くから、富士山は噴火を繰り返し、人々はたびたび噴火する富士山に、怒る神の姿を重ね「富士神(ふじのかみ)」として畏(おそ)れていました。

山宮浅間神社は、今から約1900年前(西暦110年)に富士神の怒りを鎮めるために創られたとされており、今でも古代からの富士山信仰の姿を留めています。

山宮浅間神社(やまみやせんげんじんじゃ)

富士山遥拝所(ふじさんようはいじょ)

山宮浅間神社には、本殿はなく、富士山そのものを神様(祭神)として遠くから拝む遥拝所があります。

遥拝所は、富士山が噴火したときの溶岩流の末端にあり、長方形の石でできた柵(玉垣)で囲まれています。

柵の内部は、儀式のときの役割ごとの席が溶岩で仕切られており、富士山を拝む方向に祭壇があります。

提供

本殿が造られないのは

昔のはなし

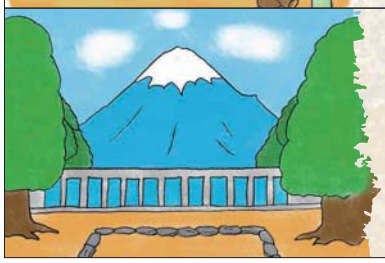
昔から山宮浅間神社には、本殿がありません。

いつの頃からか、村人たちは神社に本殿を建てようと考えました。

苦心の末、ようやく本殿の棟上げ式まで済ませました。

しかしその夜、大風が起こり本殿が吹き倒されてしまいました。

その後も、何度も同じようなことが起こりました。



「これは、きっと風の神様の祟りだ。本殿を造ってはいけない。」といわれるようになりました。

今でも山宮浅間神社には、本殿が造られていません。

山宮御神幸（やまみやごしんこう）

平安時代になると、富士神は「浅間大神（あさまのおおかみ）」と呼ばれるようになりました。そして、浅間大神は、現在の富士山本宮浅間大社に遷（うつ）され、山宮浅間神社は、浅間大社の「元宮」としてそのまま残りました。

明治時代の初めまで、毎年春と秋に浅間大神が山宮浅間神社（元宮）と浅間大社（里宮）を往復する「山宮御神幸」が行われていました。

山宮御神幸は、「農業の神様として田植えの春に山から里に下り、山の神様として収穫の秋に里から山に帰る」、「神様が、昔いた場所に里帰りする」などの意味があるといわれています。

▲平成18（2006）年浅間大社遷座千二百年祭の際、再現された様子

鉾立石（ほこたていし）

山宮御神幸では、神様が宿る「鉾」を左肩に載せたまま、途中肩を替えることなく、浅間大社から山宮浅間神社まで歩きました。

休憩するときには、鉾を地面へ降ろせないため、鉾立石と呼ばれる石の上に置きました。

鉾立石は、今でも浅間大社楼門前に1つと山宮浅間神社の参道に2つ残っています。

▲神様が宿る「鉾」と呼ばれる道具を再現したもの

▲浅間大社楼門前にある鉾立石

▲山宮浅間神社の参道にある2つの鉾立石

丁目石（ちょうめいし）

山宮御神幸で山宮浅間神社と浅間大社を往復する道を「山宮御神幸道」といい、全長50丁（約5.45km）あります。

浅間大社には、山宮御神幸道の起点の碑である首標があります。

山宮御神幸道には、1丁（109m）ごとに目印として「丁目石」と呼ばれる石碑が建てられました。

今では、丁目石のほとんどが失われています。

残っていても、場所が移されているものもあるため、山宮御神幸道の当時の正確な道筋は、はっきりわかっていません。

▲浅間大社湧玉池の首標の石碑

▲山宮浅間神社の手前にある49丁目石

富士山世界遺産ガイドが案内しています

土・日・祝日：10:00～15:00
山宮浅間神社東側の案内所にいます。

お問い合わせ
富士宮市役所
富士山世界遺産課
☎22-1489 FAX 22-1206

富士山世界遺産課
公式Twitter

富士宮を歩く すてきじかん。
～山宮浅間神社と
山宮御神幸道を歩こう～
動画はこちら→

写真提供：佐野雅則さん

山宮御神幸道マップ

ゆっくり歩いて3時間

山宮御神幸道は、5.45kmとされていますが、実際に歩くと約7kmあります。

⑦ 市内最古の道祖神
元禄2(1689)年造立

⑧ 49丁目石

⑥ 47丁目石

⑤ 46丁目石

舞々木「富士山道」道標

富士山元宮山宮浅間神社

富士山本宮浅間大社

山宮小
山宮保育園
富士宮市富士山環境交流プラザ
山宮北
三番堀
富士宮万野簡易郵便局
平成大橋
万野幼稚園
大富士中
大富士小
大富士保育園
舞々木墓地
富士見小
富士宮城北郵便局
富士宮警察署
阿幸地北
第二中
富士宮郵便局
城山公園
湧玉池
大宮小

凡例マーク
- スーパー
- コンビニエンスストア
- ホームセンター

③ 3丁目石

④ 42丁目石

① 浅間大社楼門前の鉾立石

② 浅間大社の首標の石碑